



井上 頼 豊

1912年（大正元年）東京生れ。現役のチェリストの中では年長のほう。1929年（昭和4年）伊達氏に師事。翌年上野音楽学校に入学したが後、中退。1932年頃齊藤秀雄氏に師事。1934年新響（いまのN響）に入って10年間チェロを弾き並行して、弦楽四重奏団を結成。1943年（昭和18年）北支へ応召となる。終戦と同時にシベリヤへ送られる。1948年帰国後演奏活動が再び始まる。1957年（昭和32年）招かれてモスクワを訪れ、国際コンクールの審査に当たった。愛用のチェロは1625年製の名器ガリアノ。

ヨゼフ・モルナール

1929年7月ウィーンの近くゲンザス・ドルフの生れ。6才よりピアノを習い10歳の時ウィーン少年合唱団のメンバーとして演奏旅行に参加、14歳でウィーン音楽学校に入学、イエリネリ教授のもとでハープを学ぶ、同時にアルフレッドウール教授に音楽理論、グロスマン及びシュタインブエック教授に声楽を学ぶ。1950年、ウィーン音楽大学卒業後ヨーロッパ各地の演奏会に出演、1954年春N響と芸大に招かれて、来日、一旦帰国1956年再び来日芸大で教鞭をとる傍ら放送、テレビに活躍、1957年には独唱会を開き大いに声価も認められている。



池 本 純 子

神戸の生れ、鳥取県立根雨高等女学校出身。1951年東京音楽学校（現在の芸大）本科ピアノ科卒業。1953年同校研究科修了、井口愛子、野辺地勝久、安川加寿子各氏に師事。1955年5月第1回リサイタル（東京ヤマハホール）1957年6月第2回リサイタル（東京第一生命ホール）を開き、ショパン、シューマン等のロマン派作品や近代フランスものを得意とする。ヴァイオリンの外山滋、チェロの井上頼豊氏の伴奏者として活躍。